

会 議 録	
会 議 名	令和 6 年度第 2 回丸亀市部活動地域移行等検討委員会
開 催 日 時	令和 7 年 2 月 19 日 (月) 午後 2 時～3 時 35 分
開 催 場 所	丸亀市役所 3F 302 会議室
出 席 者	出席委員： 岩根 誠・漆原 光徳・大西 光宏・香川 真美・亀山 京子・小糸 太一・齊藤 栄嗣・高井 真治・近澤 裕明・徳永 博保・前谷 智仁・山本 博美 (50 音順・敬称略) 傍聴人： なし 事務局： 末澤教育長・窪田教育部長・田中協働推進部長 岩井学校教育課長・村尾まなび文化課長・奥田スポーツ推進課長・御厨学校教育課主任指導主事・林まなび文化課副課長・平池スポーツ推進課副課長・遠藤学校教育課指導主事・大西学校教育課指導主事・多田市文化協会事務局員・西久保スポーツ推進課主任
次 第	次 第 1 令和 6 年度の取り組みについて 2 令和 7 年度の取り組みについて (予定) 3 国・県の現在の状況 4 その他
議事の経過 及び発言要旨	1. 開会 2. 教育長挨拶 3. 議事 4. 閉会
事務局 (林副 課長)	本日は大変お忙しい中、ご出席いただきまして、ありがとうございます。 ただいまから、令和 6 年度第 2 回丸亀市部活動地域移行検討委員会を開催いたします。本日の会議は「次第」に沿って進めてまいりますのでよろしくお願いいたします。 それではただいまから議事に入りたいと思います。
議長 (漆原会 長)	まず議題の 1 です。令和 6 年度の取り組みについてです。事務局よりお願いします。
事務局 (大西)	令和 6 年度の課題です。 丸亀市の中学生の人口推移ですが、毎年 30 名ほど減少をしている。令和 6 年 5 月 1 日現在では 2894 名の中学生がおります。令和 8 年には 2694 名になる見込みとなります。 また、令和 13 年には 2480 名程度まで減少すると予想されています。 本年度の部活動についてですが丸亀市の部活動については運動部が 13 競技 47 部活動あります。部員数は 1760 名で、全体の 62% 程度。 文化部については 10 種目 24 部活動があり部員数は 670 名全体の 23.8% と両方を合わせると 85% を超えております。現状かなり高い率となっておりますが、今後は中学生の減少により活動を維持するのが困難になってくることが予想されます。

	<p>次に、部活動指導員を13名配置できるように予算をしております。いろいろとマッチングしておりますが現状につきましては、下の図のとおりとなっております。</p> <p>4月の段階で運動部の指導員は配置ができたのは5名。新チーム以降、学校からの要望で追加配置はできるようになりました。</p> <p>来年度については2名が家庭の事情で辞退してほしいという届け出がありましたので運動部が7名、文化部が2名の予定となっております。</p> <p>続いて合同部活動、拠点校活動についてです。</p> <p>合同部活動については昨年より綾歌中学校と飯山中学校の野球部で行っておりました。それに追加で秋の新チームから南中学校と東中学校の合同部活動が開始されました。</p> <p>また、拠点校活動については西中のソフトボール女子で他行から1名参加しております。</p> <p>課題としましては令和7年度も運動部10名、文化部3名の部活動指導員の予定はしております。しかし、予定通り配置できていない部活動もあります。できるだけ速やかに配置していきたいと考えておりますが、香川県の方でクラブ活動等指導者人材バンク「クラサポかがわ」を作成しており、そちらも活用していく。</p> <p>それ以外にも様々なアンテナを張り巡らせマッチングを進めたいと考えております。</p>
事務局(林)	<p>まなび文化課の令和6年度の取り組みについて報告します。</p> <p>ロードマップに基づき、随時、文化芸術団体のイベント等の周知や受け入れを実施するとともに学校等の要請に基づき、文化芸術団体からの部活動指導員、外部指導員の確保を実施しておりますが、これらに加えて将来的な部活動の移行を見据えて地域の文化芸術団体と学校生との関係性構築や受け入れなどの環境整備を図ることを目的としてつながりづくりに取り組んでおります。</p> <p>具体的な取り組み状況を申し上げます。</p> <p>今年度は文化芸術団体による小学校へのアウトリーチとして文化倶楽部体験会開催を実施しております。この事業は、子供たちに多様な文化芸術活動の体験機会を提供し、地域の文化芸術活動を知ってもらうとともに、子供たちに地域の文化芸術活動への参加を促すこととしております。</p> <p>一方、地域の文化芸術団体にとっては、事業を通じて、子供たちと接することで、子供たちへの対応に関する不安を解消するとともに、新たな活動の担い手を開拓するという意味を持ち合わせております。こうした取り組みを通じて、地域での子供たちの文化芸術活動の受け皿づくりを構築して参りたいと考えております。</p> <p>事業の実施状況を申し上げますと、文化協会所属団体9分野15団体のご協力を得られる見込みとなりましたので小学4年生から6年生を対象として募集をしたところ城辰小学校より応募いただきました。調整の結果、4年生、5年生合計91人を対象に6分野8団体にて実施することになりました。今月28日に実施予定となります。</p>
事務局(平池)	<p>スポーツ推進課としての取り組みについてです。</p> <p>今年度はロードマップに基づき2件ほど取り組みを行っております。</p> <p>1つ目としましては、スポーツ団体等から、部活動指導員や外部指導員の確保、開拓を行っております。こちらについては各競技団体やスポーツ少年団の集まる会において、市スポーツ協会と協力しクラサポ香川を紹介し指導者の登録をお願いしております。</p> <p>今年度については3回ほど会議の中で周知をしました。</p> <p>2つ目は、各種スポーツイベント等の積極的な周知、受け入れということで</p>

<p>議長（漆原会長）</p>	<p>チラシがあるのですが、2月22日に新しくできた東洋炭素アーバンスポーツパーク丸亀にて「アーバンスポーツフェスタ」ということでこちらについても中学生を対象というわけではないのですが中学生の居場所づくりということで案内をしてここで活動ができるということの紹介と周知をしております。</p> <p>アーバンスポーツパークだけでなく中学生の居場所づくりということで取り組みを進めております。</p> <p>ありがとうございます。</p> <p>令和6年度の取り組みについて説明いただきましたが何か質問などありますか。</p> <p>無いようですので議事2の令和7年度の取り組みについて事務局から説明をお願いします。</p>
<p>事務局(大西)</p>	<p>令和7年度の予定を説明いたします。</p> <p>先ほども申しました通りロードマップに沿って部活動の指導者の充実を図っていくようにします。</p> <p>続いて合同部活動につきまして先ほども2つ軟式野球について夏まではその状況が続きます。</p> <p>それ以降部員数の増減などにより同様の活動になるかになります。</p> <p>拠点校部活動については現在、西中学校ソフトボール部の身ですが、中体連の方の他の部活動につきましても必要に応じて拠点校対応できるように競技部の方にも持ち掛けておりますので、ソフトボール以外にも拠点校藤鋳物ができてくる可能性はあります。</p> <p>もう1点ですが実証試験です。</p> <p>学校教育課としては四国職業訓練大学校と連携して事業を行う。</p> <p>4つの大きな科があります。機械系、電気・電子系、電子情報系、住居系というものがある。</p> <p>この4つの体験活動を休日、もしくは夏休みなどにしていきたいと考えております。平日もできるところがあればいいと思っています。</p> <p>また、指導者というのはまだまだ大変なところはありますが、大学の先生以外に、大学生の方も指導者として利用してもよろしいかという問い合わせも来ております。大学生も利用しながら指導者として手厚く対応できればと考えております。</p> <p>続いて丸亀市の軟式野球チームの現状と地域移行について説明いたします。</p>
<p>事務局(御厨)</p>	<p>これまで軟式野球競技については、部員数の減少に伴い合同部活動を実施するなどロードマップに基づいた取り組みを行ってまいりました。</p> <p>その成果がある一方で、課題や単独校で実施が厳しくなる見込みがあります。本市の方針に即した地域移行を進めていくには、新たな方向性を見出さなければならないのではと、これまで本市の軟式野球競技部と市教委で検討を重ねてまいりました。その詳細について本日この場で説明させていただきます。</p> <p>これまでは、関係課や、校長会、軟式野球部の顧問には説明を行ってその方向性について了承をいただいているところです。症例にわたって子供たちが継続的にスポーツ、文化芸術活動に親しむための大切な取り組みであると考えておりますので是非検討委員の皆様からも貴重なご意見いただければと思います。</p> <p>まず、初めにとついで本市のロードマップ確認と国の新たな方向性についてお伝えします。</p> <p>まず、本市の地域との連携協働の目的ですが、教育的意義を踏まえうえて、生徒にとって望ましいスポーツ文化芸術環境となり、教職員の負担軽減にもつながるよう、適正な運営や、効率的、効果的な活動の推進を図ることとし、</p>

部活動者、部活動指導員、そして地域人材を活用することや、複数校による合同部活動の実施など、丸亀市の実態に応じた改革を進めることとしています。

基本方針についてはそこに渡島死しているとおりでです。

令和5年度から3年間の計画になります。本件に関する部分は各校への移行及び実態調査。現状をとらえた合同部活動というところが該当すると考えております。

これまでの取り組みについては別紙イメージ図のとおりとなります。

次に、新たな方針として令和8年度から13年度末までを改革実行期間とし、地域移行から地域展開へと名称も変更し推進するということになっております。

国や県の動向を受けて本市においても、令和8年度以降の取り組みについては今後検討が必要であると考えております。

次に軟式野球部の取り組みについて詳細に確認していきます。

まず、1つ目です。先ほどありました合同部活動を実施してきました。単独でのチーム編成ができないことを受け、令和4年度の新人戦より綾歌中学校と飯山中学校。今年度の新人戦から南中と東中が合同部活動を実施しました。

2つ目に、部活動指導員を綾歌中学校に1名配置して、この活動を充実させ、教職員の負担を軽減する取り組みを行ってきました。

その成果と課題について整理しております。

昨年度の検討委員会でも報告させていただきましたが、まず成果として選手が確保され、チームとして各種大会に出場ができました。

合同部活動、部活動指導員の配置についてアンケートを実施したところ、生徒保護者どちらも満足度8割程度である為、スムーズに運営できたと考えております。部活動指導員の配置によって今後の勤務時間の調整ができやすくなり働き方改革に繋がりました

課題については練習会場への移動や、方針や活動時間の違いによる保護者や部員の理解が得られない状況もあります。合同チームを結成するっていう際にも、学校間での合意形成という部分で少し困難な場面も見られた。

次に部員数の現状についてです。今年度、2年生が市内野球部合計で36名です。5中学校あるので平均約7名。1年生は合計63名。1、2年生で合計63名。減少が進んでいる。

来年度、新1年生でスポ少から部活動に入ろうと考えている子の調査をしたところ20名弱です。

このままいくと来年度の新チーム、1・2年生の合計が47名の見込みになる。

ここまでくると合同チームの編成も難しくなっている。今後、大幅に増える見込みもなかなかない為、保護者の方から今後の軟式野球はどうなっていくのかという問い合わせがある。

そこで、今回の資料にあるように、今までの部活動は学校部活動の位置づけである。これまでの取り組みを経て、学校と連携して行う地域クラブ活動に移行する時期が来ていると考えております。

丸亀クラブ仮としております。

まずは、市教委と連携しながら準備を進めていく。対象の子供たちは市内中学校軟式野球部所属の生徒たちになります。

準備運営委員としてコーディネーターの大西先生、地域代表として市PTA連絡協議会の岩瀬さんを予定しております。話をして了承を得ております。中体連からは専門部長の森崎先生、両方の立場から私御厨もかかわらせていただこうと考えております。

指導者としては教員を中心に手続きを進めながら指導できる体制を整えていきます。

また、これまで同様に部活動指導員の配置を行って地域と連携しながら指導していこうと思います。

さらに、野球人口が減少している課題については、市スポーツ少年団とも連携しながら人口を増やしていく取り組みを実施していければと思います。

今後の輔ジュースについてです。市内の中学生を1つにまとめるタイミングとしては令和8年の新チーム発足時を考えている。つまり、令和7年度の1年生が1番上になるタイミングです。

そこまでの1年3か月を準備期間としています。これまでも合同部活動を行ってきたが見通しが立たず不安な声もあったことから来月には情報配信システムなどを活用し市全体の経過報告をすると同時にクラブ化についても周知します。

また、新入部員が確定した段階においても再度、外套の保護者等に集まっていただいて今後の説明を行い、定期的に外套の子供たちを集めて合同練習会などを行い、人間関係作りをし、その地域移行に向けた進捗状況を保護者に説明することを丁寧にとっていきたいと考えております。

令和8年度の8月以降について休日はまずそういった形で活動していく方向性です。平日もクラブとして活動を行うかは状況を見ながら判断していこうと思います。

クラブ化の利点ですが1つ目は軟式野球を親しむ機会の確保。先ほどまでに説明した通り、中学校での練習が今後できなくなってくる可能性がある。まだまだ需要はあるので選択肢の1つとして存続で来るように本件を進めていきたい。

2つ目は教育的効果の維持。まずは中学校の教員にも優秀な指導者がいるのでそこを中心に指導を行う。勝利至上主義に陥らず人間教育を軸に持つ教員で指導を行う。

今後は地域指導者にも入っていただき一緒に指導していただく中で教育的効果を継続できるように指導者も育てていきたいと考えています。

3つ目は、保護者・生徒に与える安心感です。市内のスポーツ少年団の6年生は自分のチームを引退したタイミングで「オール丸亀」と呼ばれる連合チームを結成する。そこで関係ができるため中学に行っても一緒に野球ができるということは安心感につながると思います。

教員がかかわるということと学校施設の利用なども保護者に与える安心感につながると考えております。

クラブ化における留意点です。

まずは見通しを持って取り組みことで信頼を得ることができると思っております。

また、スポーツ少年団に所属していないまたは野球が未経験の子でも野球に親しむことができるような活動の機会を確保していきたいと考えています。

各家庭への負担や移動の問題等も市教委と連携しながらしっかりと対応していきたい。

どうしても受益者負担は発生するが部活動の際にも発生していたのでしっかりと説明をしていきたい。

次に、運営についてです。まずは、市内効率中学校在籍の生徒に限ってやっていく。

保護者との連絡については、県が提供している「部活動アプリ」を活用し連携していきたい。

最後に、将来のビジョンについてです。

5年後には平日を含めて進めていく。

指導者についても地域の人に入っていただく。

10年後ですが、クラブ出身者を地域指導者としてかかわっていただくという形に持っていきたい。持続可能な集団を目指していきたい。

議長(漆原)	ご意見ありますか。
前谷先生	まず、大学生を指導者として入っていただくということですが何か資格などは持っているのでしょうか。 また、オール丸亀の活動どう開始時期と期間はいつになるのか。
事務局(大西)	大学生のことについてです。それぞれの科に通っている生徒になります。本人は専門で習っていることなので指導しやすいと思います。ただ、大学の先生が指導に当たらせたいということなので練習や指導したうえで中学生に閱すると思います。資格は現在ありません。
事務局(御厨)	11月末ごろまでは各チームの招待試合などがある為、12月から3月中旬くらいまでは試合が続いていく。 丸亀だけでなく他郡市もこのような形をとっている。交流試合を盛んに行っている。今現在は30名くらいで活動しています。 ただ、この中でも全員が軟式野球クラブに進むわけではなく硬式野球に進む子もいます。
議長(漆原)	他に質問はありますか 無いようですのでまなび文化課お願いします。
事務局(林)	まなび文化課の令和7年度の取り組みについて説明します。 令和7年度においてもロードマップに沿った取り組みをするとともに本年度実施しております、アウトリーチ事業を継続して実施する予定としております。また、新たに中学生を対象として事業を実施する予定となっております。小学校3校程度、中学校も3校程度です。今年度募集が12月で若干遅かったため早めに募集をかけまして、多くの学校に参加いただきたいと考えております。 また、本事業を実証事業として位置付ける予定です。まなび文化課の取り組みについては以上です。
事務局(平池)	スポーツ推進課の取り組みについて説明します。 先ほどの2点を継続しつつ令和7年度については東洋炭素アーバンスポーツパーク丸亀を活用し、スケートボード教室を年に数回程度実施する予定となっております。香川スケートボード協会にお願いをする。対象としては中学生と小学生の高学年も対象にしてスポーツ教室をやっていこうと考えております。 スポーツ推進課の取り組みは以上です。
議長(漆原)	両課からの説明を頂きましたが質問はありますか。 無いようですので次の議事をお願いします。
事務局(大西)	国県の動向について説明をします。 こちらは全国の数値となります。 まず、中学生の人数の推移です。2000年頃は500万人ほど中学生がいたようですが、現在は約300万人。2033年250万人。どんどん減少しているのが見れます。 続いて運動部の参加率です。令和元年を菅田くらいから急激に減少しております。 続いて運動部に加入している中学生の推移です。これは平成25年度から令和5年度までの10年間での比較となります。

また、合同部活動の実施チームの推移です。
先ほど、丸亀市の軟式野球部をクラブチームかしていくと話をしましたが全国でも同じようなことが見えます。
合同チームというのが、平成25年には154チーム全国であったようですが、令和5年度には1161チームということで650%くらい増加しております。
これがどういうことかということ、合同チームが増えているということは単独チームが減っているというとらえ方ができる。ということはそういった機会が減ることが野球競技で全国的に広がっているということです。
文化部を取り巻く現状としてはこちらも横ばいも敷くが減少傾向にあります。その中で吹奏楽連盟の調査結果を見ると、大編成で参加している学校は少なくなっている。少人数編成が増えているということでいろんなところで減少傾向であるといえます。
続いて改革推進。令和4年12月に発表されたものです。
大事なところが生徒がスポーツ技術活動に継続して親しむことができる機会を確保するというのが一番の目標として考えられています。
次のところが今後の方向性となっております。これが一番新しい資料となっております。令和6年12月18日の資料です。
同様に将来にあたって生徒が継続的にスポーツ文化芸術課津堂に親しむ機会を確保するとあります。
その中でも、いくつか変わっていることがあり、地域全体で連携して取り組みの名称の変更ということで地域移行という名称は地域展開でへんこうしますとこちらで明確に出しております。
改革実行期間となっておりますが令和8年から10年までは前期と。中間評価をしたのち11年から13年を後期として定めております。13年度は2500名程度になる見込みであるのでこのような形で進めていくというところ です。
丸亀の野球のところでもあった費用負担については国、道府県、市町村で支え合っていく必要があるとも書かれております。
県の動きです。
クラサポかがわがあります。部活動指導員のデータバンクとなっております現在44名登録があり丸亀市は10名の登録があります。
このマッチングについては学校の要望とマッチングする人との要望がうまくいかないマッチングが難しいということになります。このアプリだけでなく様々なところにアンテナを張り巡らせて人材の発掘をしていくことが課題となります。

議長(漆原)

他に質問はありますか。

先ほど説明があったように12月に文科省から発表がありましたが、部活動について指導要領から外すということを明言しました。
今後、中学校においては部活動が義務ではなくなるということになり、やらなくてもいいということに私も驚きました。
そうなるとおそらく市町においては、部活動ができない、やりたいけどできないというようなことも出てくるかもしれません。
実は、年末に調べたところ、全国の市町村のうち大体1割くらいがこのような委員会が立ち上がっていないという状況になります。その1割の市町村はもしかすると中学校部活動をあきらめてしまう、或いはやりたいけどできないという状況になるかと思えます。
その一方で、報道にもあったように熊本市はそのまま部活動を継続するという本心を打ち出しました。これもかなりの影響を与えております。近隣の市から熊本市に生徒が大移動していしまうのではと考えている指導者もいま

大西校長	<p>す。 この状況で、他に何か意見はありますか。</p> <p>1つは野球については非常に切実な問題になりつつあります。ただ、合同チームというデータだけでは難しいところもあると思います。</p> <p>でも一方で教員の働き方改革ではあるが何が働き改革なのかといったときに時間だけでなく働く人が幸せを感じるかが一番大切だと考えています。部活動をしていきたいと思っている指導者がいるというのも事実です。一番は野球の丸亀クラブがモデルになりほかの部活動にも広がってほしいなと思っております。</p> <p>答えは何かわかりませんが、現場の子供たちの意識、或いはやりたいと主0っている子供たちが80%を超えているのでそういう子供たちを大切にしながらどこでするのか、どうやるのかというところを考えていかなければいけないと思います。</p> <p>ただ、金銭的負担についても大きな部分になりますのでそこについても再度調べたうえで検討していく必要があると思います。</p>
高井先生	<p>中体連として県のデータで全国の中体連の方向性を見てみると、以前、協議によっては全国大会をしないという競技もありました。その競技においては何とか全国大会を開きたいという方向で違う形ではあるが全国大会を開きたいということです。</p> <p>現状、総合体育大会というのは全国大会につながってくる大会になるのですが、それが地域・県・四国と勝ち上がっていたチームが全国大会に出場できるというものなのですが、全国大会に繋がる糟谷出場できるチームが競技によっては様々で協議によってはクラブチームが出れる、出れないという競技はあり様々なので現場は非常に混乱しているというのが現状です。</p> <p>そのあたりも含めて、地域移行、地域展開ということを考えていかなければいけないと思います。</p> <p>根本的には、やっぱり子供の活動場所を確保してあげるのが先決ではないでしょうか。</p> <p>そこがスムーズにいかないところが課題だと思います。</p>
亀山先生	<p>文化部についても運動部活動についても、児童生徒に様々な機会を提供することを継続して行うというこの趣旨は本当にありがたいと思います。島の学校に勤務しておりますが、小学5年生の男子児童は島の駐在さんにトロンボーンを習いながら活動しております。</p> <p>また、令和13年度に中学1年生になる年長さんの男の子のところには秋にオリーブ外ナースの選手がきて喜んで活動をしていました。彼が、中学生になった時に受け皿があればいいなと思い今日の話聞いていました。</p>
前谷先生	<p>合同部活動を行う上での基準などを知りたい。</p>
事務局(大西)	<p>初めは足りないチーム同士で組むのが原則でした。</p> <p>その後、足りないチームとそうでないチームでの編成もよくなり、現在では、足りているチーム同士での編成も許可している市町もあります。</p> <p>丸亀も今度の新チームからの編成ではそれを認めるようになります。</p> <p>中体連の方でも毎年のようにルールが変わっている状況になります。</p>
スポーツ協会 齊藤	<p>中学生の人数の推移をみると間違いなく減少してくことが見てわかる。今から10年もすればさらに減少していく。そうすると部活動をしていくのは難しくなってくる。</p>

	<p>合同部活動を作ったりしていても最終的には地域がかかわる知育クラブとして活動する必要があると思う。国が言っているのもこのことだと思っている。</p> <p>そういつて時に、丸亀市としてどうしていくのかというのがあればいいと思う。</p> <p>スポーツ少年団の大会などに行ったりして野球のチームを見たりするがあまりにも少ないという風を感じたこともない。小学校と中学校の連携でなにか壁があるのではないだろうか。</p> <p>ソフトテニス競技の方で保護者の方から夏休みや休みの日にも時に面倒を見てくれないかという話が出た。やってみたらうまくいったという話も聞いている。</p> <p>実証的なことで今後もお願いしたい。</p> <p>この委員会では地域移行について話をしているが現場ではこのような事例もあるという情報提供を今後もしていきたいと思っております。</p>
<p>議長(漆原)</p>	<p>野球に関しては私も携わっているので独特な状況があり中学校から硬式野球クラブに入る子供が県内でも多くなっている。クラブ自体がかなり増えている。そういった背景が中学校の軟式野球部をどうするのかというところに繋がってくる。</p> <p>中学・高校・大学で硬式を指導したいという話もあります。</p> <p>そうは言いながら、も野球人口全体の減少はあります。サッカーにずいぶん流れているというのがあります。今回のクラブが様々なブブ b b でクラブ組織ということになると思っております。</p> <p>丸亀が、これで軟式のクラブを作るとなると県内ではおそらく先んじて動いていくということになると思います。模範になるかと思いますし、やりたい子供たちがまとめて入ってくることにものなると思います。</p> <p>先月の東京での会議でも意見として出たのですが子供たちの取り合いになってくると思うという意見でした。市と町で取り合うことになるかもという話が出た。義務教育がそれでいいのだろうかという話が文科省がらみの人からも出てきた。混乱の中で今、このことが動いているのだと実感をしていました。そのあたりもご理解いただけたうえで丸亀市の方針をこれから考えていくべきだと考えています。</p>
<p>齊藤さん</p>	<p>私からはもう一度お願いしたいのは小学校から中学校での一つの流れの中で繋がっていく。丸亀市は頑張ってやる子供たちがスポーツをできる環境を作っていくと。小学校から中学校、本当は高校・大学まで全体とつながっていくような取り組みを作っただけだと全体的にもうまくいくと思っっている。また子供の取り合いも、丸亀市が率先して行うといい状況が生まれてくると思います。</p>
<p>近澤さん</p>	<p>まず、文化協会が地域移行を受けるとなると協会に所属している人は60代70代80代がたくさんいる中に部活動を取り込むという形になります。</p> <p>今までは学校の先生が部活動で教える、場合によっては書道の先生などが学校に来て教えてくれるという基本的には学校ベースであった。</p> <p>それが、地域移行になった時に家元とかに行くようになりものすごく格差が出てくる。</p> <p>昔はブラスバンドをやるときは50人の部門というカテゴリーで出ていくことが多かった。そのときは部員が100人とかの時代で半分が出れないということもあった。</p> <p>50人であってその部門に出れる学校がもうすでにほとんどないという状況になっている。今は少人数の部門になってきている背景がある。</p>

	<p>過去は人数が多かったから枠組みを作ってそこに人を入れていくということでもよかった。</p> <p>しかし、今は人が少なくなったので枠を小さくしたりくっつけたりして何とかやってきているがその枠事態がそれで正しいのかというところに来ているのではないのでしょうか。今の議論は枠を小さくしましょうとか、枠をくっつけて一つにしましょうとかそういったことをしていると思います。</p> <p>そうではなく丸亀市として独自の枠組みが必要なのではないのでしょうか。例えば、ブラスバンドを例にしますが、どこかのブラスバンドを大人のブラスバンドに土曜日や日曜日に来ていただくという風に聞こえます。それは今ある枠を利用すればという話しになります。</p> <p>しかし、それには無理があると思います。なぜならば大人のブラスバンドは夜やっているからです。そこに本当に中学生が来れるのかという問題があります。では昼間にやってくださいという話が来ても既存のブラスバンドができないとなる。</p> <p>新たな丸亀スタイルの枠を作りその中で我々も協力し、学校にも協力していただき生徒がそこで楽しめるという枠組みを新たに作る必要があるのではないか。音楽も運動部活動も変わらない。そうした中でそれを、各協会やアソシエーションがあると思うので認めていただくと。正規のチームとして出場できるようにしてもらいたい形にしていけない。</p> <p>今ある枠をどうしようというところに頭が行きがちであるがそのあたりがどうにもなくなっている。そこで丸亀市スタイルの新しい枠を作り、今言われていた小学校、中学校、高校、大学のつながりができるスタイルを作っていくべきではないのでしょうか。</p>
山本さん	<p>文化協会の事務局として学び文化課のようなクラブ活動体験会に携わらせていただいて大変ありがたく思っております。</p> <p>文化協会が高齢化している中で子供たちとの触れ合う体験会ができたことがなかなかない。自分たちが文化芸術を取得した体験をやっぴり子供たちに伝えて体験させてあげたいと思えるきっかけになりました。</p> <p>また、近澤さんのような若い指導者の方がいると文化協会の中の違う流れができるのではないかと思います。</p> <p>今は、パソコンや携帯などでいろんなものが見れるようになり人に教えてもらうぬくもりを感じられるような体験が大切なのではないかと思います。</p>
P T A 岩根	<p>御厨先生からの説明もあったように自分もオール丸亀にかかわっているここ数年で野球を取り巻く環境は大きく変わってしまった。昔は、トップの子供たちだけが硬式野球クラブにスカウトなどで言っていたが、最近は中間層くらいまでごっそりといってしまう。今でも遅いくらいだと思っているがすぐにでも動かないといけない。ぜひとも頑張ってもらいたい。</p>
P T A 香川	<p>子供が減ってきている。</p> <p>息子が5年生だがどんな部活動に入りたいか聞いても反応がない。小学校6年生の終わりにある中学校の説明会の時に部活動の見学とかがあった時に初めて何があるのかわかるくらい。もう少し早い段階で見学や説明会などがあればもっと選択肢が増えるのではないだろうか。</p>
議長(漆原)	<p>保護者からの貴重な意見ありがとうございます。</p> <p>以上で第2回検討委員会を終了いたします。</p>

